

報道関係各位

2025 年 11 月 6 日

大成建設株式会社

NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社

**大成建設と日本通運が取り組む「建設副産物巡回回収システム」が
「第 13 回プラチナ大賞優秀賞 資源循環活用賞」を受賞**

大成建設株式会社（社長：相川善郎、以下「大成建設」）と NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社（社長：堀切智）のグループである日本通運株式会社（社長：竹添進二郎、以下「日本通運」）が協働で進めている「建設副産物巡回回収システム」の活動が「第 13 回プラチナ大賞※¹」（主催：一般社団法人プラチナ構想ネットワーク）優秀賞 資源循環活用賞」を受賞しました。



（写真左：大成建設 谷山二郎 CSuO 副社長執行役員
写真右：日本通運 杉山千尋 代表取締役副社長執行役員）

本システムはこれまで、「第 33 回地球環境大賞 日本経済団体連合会会長賞」、「令和 6 年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 内閣総理大臣賞」、「第 52 回環境省 優秀賞」を受賞しており、今回で 4 度目の表彰となります。

本システムは、複数現場を同一車両で巡回し、品目ごとに効率回収・二次輸送することで再資源化を加速させる取り組みですが、協業による再資源化量の拡大と安定運用、業界全体への普及を進めた点、ならびに運搬コストと CO₂ 排出量の大幅削減が高く評価されました。

今後は、回収エリアの拡大、対応品目や建材メーカーの追加、モーダルシフト※2による遠距離運搬など、更なるシステム拡充を図ることで、建設・物流の両産業における脱炭素と資源循環の高度化に貢献し、持続可能で豊かな「プラチナ社会」の実現に寄与してまいります。

【受賞テーマ】

「建設副産物巡回回収システム」の構築と展開

【取り組みの概要】

従来、建設現場から排出される建材端材は、多種多様で混合廃棄物になりやすく、分別やリサイクルが困難でした。また、個々の現場から再資源化施設へ運搬する場合、運搬コストが高く、CO₂排出量も増加するという課題がありました。

そこで大成建設と日本通運は広域認定制度※3を活用して、これまで埋め立て処分をしていた建材端材の一部を、建材原料として再資源化することを目的に、複数現場を同一車両で巡回回収し品目ごとの再資源化施設にまとめて二次輸送できる「巡回回収システム」を開発しました。

本システムの要は、観音開きタイプのかご台車「NRBOX」による“見える化”と分別精度の向上、そして複数現場巡回による積載率の最大化です。回収後は品目ごとに再資源化施設へまとめて二次輸送し、製品納品車の「帰り便」も活用。広域認定制度を通じ、建材端材を建材原料として再資源化します。

協業開始（2023年）以降、再資源化量の拡大と安定運用体制を確立し、モーダルシフト（鉄道・船舶）も視野に遠距離輸送のCO₂を抑制。今後は回収エリアの拡大、対応品目・建材メーカーの追加を計画し、建設・物流の双方で環境負荷低減を進めます。



※1 プラチナ大賞：

<https://platinum-network.jp/activity-platina/>

プラチナ大賞は、人口減少や環境問題などの社会課題に対し、革新的な発想や技術で解決を目指す自治体・企業・団体を顕彰する制度です。

「プラチナ社会ネットワーク」が主催し、持続可能で質の高い成熟社会＝「プラチナ社会」の実現に資する優れた事例を全国に発信しています。

※2 モーダルシフト：

環境負荷の低い輸送手段（Modal）への転換（Shift）すること。具体的には、トラックに代表される幹線貨物輸送を地球に優しく大量輸送が可能な鉄道や船舶などの輸送手段に切り替えること等があげはまる。

※3 広域認定制度

建材メーカー等が環境大臣の認定を受けて自社製品が廃棄物となったもの（製品端材等）を広域的に回収し、製品原材料等にリサイクル又は適正処理する制度。



建設副産物巡回回収システム